

## 学会だより

### ◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成 21 年 3 月 14 日 14:00 ~ 18:00

開催場所：東京大学農学部

出席者：会長 長戸康郎，副会長 倉田のり，矢野昌裕，奥野員敏，伊藤純一，久保友彦，鳥山欽哉，築山拓司，加藤鎌司，長谷川博，乙部千雅子，小松田隆夫，田口文緒，安井秀，佐々英徳，久保山勉，中園幹生

各常任幹事からの経過報告後，会計に関する会則・内規の改定，日本育種学会論文賞の選考に関する内規の改定，優秀発表賞に関する会則・内規の改定，優秀発表賞の投票方法，英文誌編集委員の追加，託児室利用者への講演時間の配慮，男女共同参画推進委員会委員の交代，GMO 連絡会委員の追加，2010 年春季大会・秋季大会および 2011 年春季大会の開催地，雑誌送付時のチラシの封入，2009 年秋季大会における一部の業務の外部委託，平成 20 年度決算および平成 21 年度予算，育種学会運営費によるアルバイトの雇用，Breeding Science の体裁の変更，Breeding Science Special Issue の費用負担，Breeding Science オンライン公開の早期化，国立国会図書館への科学技術振興機構（JST）からのコンテンツ提供，データベース EBSCOhost への収録，和文誌編集体制に関して討議を行った。

### ◇ 幹事会議事録

開催日時：平成 21 年 3 月 26 日 14:00 ~ 17:00

開催場所：つくば国際会議場 中会議室 202B

出席者：会長 長戸康郎，副会長 倉田のり，矢野昌裕，喜多村啓介，久保友彦，佐野芳雄，三浦秀穂，原田竹雄，鳥山欽哉，半田裕一，江面浩，奥野員敏，岩田洋佳，渡邊和男，新倉聡，金子幸雄，吉田薫，穴戸理恵子，平田豊，佐藤豊，掛田克行，村井耕二，松岡信，築山拓司，寺石政義，清水顕史，長谷川博，加藤鎌司，佐藤和広，富田因則，安井秀，穴井豊昭，和田卓也，伊藤純一，寺地徹，小松田隆夫，田口文緒，乙部千雅子，久保山勉，佐々英徳，中園幹生 計 41 名

委任状：高畑義人，滝田正，菅野明，木庭卓人，石坂宏，荻原保成，大村三男，田浦悟 計 8 名 総計 49 名

#### 1. 各常任幹事経過報告・関連報告

1) 総務（中園）：2009 年 3 月 9 日時点の会員数は 2,167 名であり，平成 20 年度の 1 年間を通して会員数が 2,200±40 名で推移したことが報告された。

2) 科研費・農学会（伊藤）：(1) 科学研究費 (a) 研究成果公開促進費（学術定期刊行物）：2008 年 11 月 7 日に平成 21 年度科研費「研究成果公開促進費（学術定期

刊行物）」の申請書を提出したこと，2009 年 1 月 15 日に平成 20 年度科研費の状況報告書を提出したことが報告された。(b) 研究成果公開促進費（研究成果公开发表 (B)）：2008 年 11 月 7 日に平成 21 年度科研費「研究成果公開促進費（研究成果公开发表 (B)）」の申請書（課題名：私たちの生活と品種改良—北海道農業の底力—）を提出したこと，11 月 10 日に平成 20 年度科研費の実績報告書を提出したことが報告された。(2) 農学会 平成 21 年度に開催される日本農学会 80 周年記念シンポジウム「世界の食料・日本の食料」の講演者として，育種学会より推薦した作物研究所所長の岩永勝氏が選定され，日本農学会から正式に岩永氏に講演依頼することが報告された。

3) ホームページ（寺地）：平成 20 年度のホームページのアクセス数が年間 5-6 万件であること，新着情報の更新件数が 38 件であったことが報告された。

4) 地域活動（各地域幹事）：北海道地区では，2008 年 12 月 6 日に北海道大学において日本育種学会・日本作物学会北海道談話会（参加人数：約 90 名）が開催され 57 課題の一般講演が行われたこと，また，2008 年 12 月 9 日，2009 年 3 月 17 日に合同例会が開催されたこと（久保），東北地区では 8 月 26 日に弘前大学で東北育種研究会を開催し，参加者が 46 名であったこと（鳥山），中部地区では 11 月 29 日に名城大学で育種学会中部地区談話会が開催されたこと（佐藤），近畿地区では 2008 年 12 月 13 日に神戸大学で近畿作物・育種研究会の例会が開催されたこと（築山），中国・四国地区では 2008 年 12 月 6 日に岡山大学資源生物科学研究所で山陽育種談話会がムギ類研究会と共同開催され，参加人数は 80 名であったこと，山陽育種談話会を発展的に解消し今後は日本育種学会中国地域育種談話会として活動すること，2008 年 11 月 27-28 日に育種学会四国談話会講演会およびシンポジウムが香南市において開催され，それぞれの参加人数は 20 名，80 名であったこと（加藤），九州地区では 2008 年 12 月 6 日に九州大学で九州育種研究会が開催され，参加人数は 59 名であったこと（安井）が報告された。

5) GMO 関連（江面，渡邊）：講演会 2 日目（3 月 28 日）午前中にシンポジウム「GM 作物開発をめぐる諸課題」があること，2009 年がカルタヘナ議定書の改訂年にあたり，今後改訂に関してパブコメが求められるので学会として意見を出していきたいこと，遺伝子組換え技術を使わずにクローン増殖した植物もカルタヘナ議定書での規制に抵触する可能性が出てきたため，2010 年に名古屋で開催される第 5 回締約国会合に向けて今からクローン増殖は問題なしということを主張すべきであるということが説明された。

- 6) 編集英文誌 (小松田) : *Breeding Science* 58 号 (2008 年) および 59 号 (2009 年) の投稿・審査状況に関する報告のあと、オンラインによる投稿システムおよび Special Issue の発行準備が順調にしていることが報告された。
- 7) 編集和文誌 (安井) : 育種学研究 10 号 (2008 年) および 11 号 (2009 年) の投稿・審査状況に関する報告があった。
- 8) 集会関係 (佐々) : 前大会 (滋賀県立大学) 開催報告があり、さらに今大会 (つくば国際会議場)・次大会 (北海道大学) 開催予定の報告があった。今大会のオンライン参加登録の登録率は 79% で、前回の 84% と比べ減少したことが報告された。
- 9) シンポジウム委員会 (平田) : 講演会初日 (3 月 27 日) 午後開催される作物学会との合同シンポジウムの準備状況の報告および 2009 年秋季大会 (北大) において開催予定のシンポジウム 3 課題の提案があった。
- 10) 男女共同参画についての活動状況 (吉田) : 3 月に開催された女子高校生春の学校「ジュニア科学塾」に近江戸委員が参加し協力したこと、10 月 7 日に京都大学で開催された第 6 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにポスター発表をしたこと、講演会 2 日目 (3 月 28 日) に第 3 回ランチョンセミナーを開催すること、HP の改訂をして学会大会保育室の利用規程を整備したこと、本大会でも保育室が設置され 4 件 6 名の申し込みがあったこと、保育室利用者への講演時間帯の配慮などが報告された。
- 11) 記者レク報告 (矢野, 伊藤) : 3 月 19 日にマスコミ 7 社に対して 3 件の学会発表課題の記者レクを行ったこと、日本農業新聞に記事が掲載されたことが報告された。
- 12) JABEE 関係 (平田) : 平田豊, 丸橋亘, 富田因則の 3 氏が JABEE の農学一般関連分野の審査員となる予定であることが報告された。

## 2. 議事

- 1) 平成 21 年度学会賞等選考委員 (6 名) の選出  
平成 21 年度学会賞等選考委員 (6 名) に関する投票が行われ、6 名が同委員に決定した。なお、委員長は内規に従い副会長が務める。  
平成 21 年度学会賞等選考委員: 倉田のり (委員長), 喜多村啓介, 矢野昌裕, 奥野員敏, 鳥山欽哉, 佐野芳雄, 江面浩 (次点: 安井秀, 吉田薫, 加藤鎌司, 佐藤和広)
- 2) 第 6 回 (平成 20 年度) 論文賞の選考  
論文賞に関して学会賞等選考委員会より推薦された候補について投票を行い、次の 2 件が論文賞に決定した。  
<日本育種学会論文賞第 11 号>  
論文名: Development of mini core collection of Japanese rice landrace (日本在来イネ品種ミニコアコレクションの作成)

著者名: Ebana, K., Y. Kojima, S. Fukuoka, T. Nagamine and M. Kawase (江花薫子, 小島洋一郎, 福岡修一, 長峰司, 河瀬真琴)

掲載誌: *Breeding Science* 58 (3): 281–291.

<日本育種学会論文賞第 12 号>

論文名: Marker enrichment and construction of haplotype-specific BAC contigs for the polyembryony genomic region in *Citrus*. (カンキツにおける多胚性遺伝子座ゲノム領域のマーカー高密度化とハプロタイプ特異的 BAC コンティグ構築)

著者名: Nakano, M., T. Shimizu, H. Fujii, T. Shimada, T. Endo, H. Nesumi, T. Kuniga and M. Omura (中野道治, 清水徳朗, 藤井浩, 島田武彦, 遠藤朋子, 根角博久, 國賀武, 大村三男)

掲載誌: *Breeding Science* 58 (4): 375–383.

### 3) 平成 20 年度決算報告, 監査結果

平成 20 年度の決算報告がなされ、これまで今年度に入金された次年度の年会費を今年度収入とし、最終的に次年度への繰越金として扱っていたが、それを今回から今年度収入ではなく次年度収入として取り扱うことにしたことが説明された。そのため、見かけ上、平成 20 年度決算が赤字になっているが、実際の財政事情はこれまでと大きく変わらないことが説明された。また、2009 年 2 月 24 日に平成 20 年度の会計監事による会計監査が実施されたことが報告された。平成 20 年度決算について、原案通り承認された。

### 4) 平成 21 年度予算案の検討

平成 21 年度予算方針として科研費による助成金補助はゼロ査定で予算を作成したこと、収入の掲載料は投稿システムの変更に伴い新設したことなどが説明された。助成金補助が得られない場合の財政事情はかなり厳しいので、会員数を増やす、学生会員に年会費を確実に支払ってもらうなどの努力をしてほしいという要望が出された。平成 21 年度予算案は原案通り承認された。

### 5) 会計に関する会則・内規の改定について

会則第 11 条内の本会の事業年度および内規「J. 日本育種学会会計に関する事項」内の会計年度が暦年となっていたが、暦年では曖昧なため下記のような改定案が提案され、承認された。

会則第 11 条の改定: ◎現行会則「第 11 条 本会の事業年度は暦年による。」→◎改定会則「第 11 条 本会の事業年度は 1 月 1 日に始まり、12 月 31 日に終わる。」  
内規 J. 日本育種学会会計に関する事項の改定: ◎現行内規「(前略) 2) (会計年度) 学会会則第 11 条により、会計年度は暦年とする。(後略)」→◎改定内規「(前略) 2) (会計年度) 学会会則第 11 条により、会計年度は 1 月 1 日に始まり、12 月 31 日に終わる。(後略)」

- 6) 日本育種学会論文賞の選考に関する内規の改定について  
現行の内規では、学会賞等選考委員会は原則として

2件以内の論文賞授賞候補論文を決定することになっているが、最近優れた論文が増えており2件以内だと選定が困難な場合があるため、授賞候補論文を3件以内まで増やすことが提案され、承認された。それに伴い、下記のような内規「G. 日本育種学会論文賞の選考に関する事項」の改定案が提案され、承認された。

- ◎現行内規「5）論文賞選考委員会は学会賞等選考委員会が兼務する。選考委員長は選考委員会を招集し、編集委員長から事前に提出された論文賞最終候補リストおよび推薦理由を基に、原則として2件以内の受賞候補論文を決定する。（後略）」
- ◎改定内規「5）論文賞選考委員会は学会賞等選考委員会が兼務する。選考委員長は選考委員会を招集し、編集委員長から事前に提出された論文賞最終候補リストおよび推薦理由を基に、3件以内の受賞候補論文を決定する。（後略）」
- 7) 「優秀発表賞」の授与に関する会則の改定について  
優秀発表賞の創設に伴い、下記のような会則第4条の改定案が提案され、承認された。
- ◎現行会則「第4条 本会は会則第2条の目的を達するため次の事業を行う。（中略）(3) 日本育種学会賞、日本育種学会奨励賞、日本育種学会論文賞および日本育種学会功労賞の授与（後略）」
- ◎改定会則「第4条 本会は会則第2条の目的を達するため次の事業を行う。（中略）(3) 日本育種学会賞、日本育種学会奨励賞、日本育種学会論文賞、日本育種学会功労賞および日本育種学会優秀発表賞の授与（後略）」
- 8) 「優秀発表賞」の選考に関する内規の改定について  
下記のような内規「I. 日本育種学会優秀発表賞の選考に関する事項」の改定案が提案され、承認された。
- ◎現行内規「付記。投票手順：（中略）なお、幹事会欠席者に対しては、講演会1日日午前中に限り大会本部で投票用紙を配布する。座長に対しては、別途配布する。記入済み投票用紙は、大会本部に設置する投票箱に講演会最終日の一般講演終了15分後までに投入する。」
- ◎改定内規「付記。投票手順：（中略）なお、幹事会欠席者に対しては、講演会1日日昼休みに限り大会本部で投票用紙を配布する。座長に対しては、別途配布する。記入済み投票用紙は、大会本部に設置する投票箱に投入する。」
- 9) 英文誌、和文誌の掲載内容の変更について  
これまで Breeding Science に講演会の発表タイトル・講演者の英語名が掲載されており、年間約20ページがそれらの掲載に割かれている。また、各論文の1ページが奇数ページで始まるように体裁が整えられており、年間約30ページが白紙ページである。そこで、Breeding Science の出版費のコストを下げるために、それらのページを廃止することが提案された。講演会の発表タイトル・講演者の英語名の掲載の廃止について

は承認された。しかし、白紙ページの廃止に関しては、論文によっては前の論文の最後のページが別刷の1ページ目になる可能性があることから、出版社と別刷の体裁を協議する必要があるため、次の幹事会での継続審議事項となった。

- 10) 平成22年度春季大会開催地について  
平成22年度春季大会の開催を京都大学（大会委員長：谷坂隆俊教授）に依頼することが提案され、承認された。
- 11) 東北地区選出幹事の交代について  
東北地区選出幹事の滝田正氏（東北農業研究センター）が2009年4月から関東地区へ異動するため、東北地区選出幹事が平成20-21年度幹事選挙で次点であった五十鈴川寛司氏（山形県文化環境部学術振興課）へ交代することが提案され、承認された。
- 12) 英文誌、和文誌の編集委員の追加について  
英文誌編集体制について、平成21年度より作物研究所所長の岩永勝氏を英文誌編集委員に追加することが提案され、承認された。また、和文誌編集体制について、平成21年度より阿部利徳氏と船附秀行氏を和文誌編集委員に追加することが提案され、承認された。
- 13) 男女共同参画推進委員会委員の交代について  
平成21年度より男女共同参画推進委員会委員が勝田真澄氏（委員長）、吉田薫氏、奥本裕氏、船附秀行氏、宍戸理恵子氏に交代することが提案され、承認された。
- 14) GMO連絡会委員の追加について  
日本育種学会 GM 作物対応ワーキンググループは現在3名（江面浩氏、大澤良氏、矢野昌裕氏）の体制であるが、さらに佐藤裕氏、熊丸敏博氏の2名を追加して、5人体制で今後の問題に対応していくことが提案され、承認された。
- 15) その他  
シンポジウム委員会より、非学会員のシンポジウム講演者の大会参加費、懇親会費、旅費を開催校の運営委員会が負担しているが、負担が大きすぎるので、学会本部でこれらの経費の一部負担を検討してほしいという要望があり、常任幹事会で検討することになった。男女共同参画推進委員会より、今後の委員会活動について良い案があれば提案してほしいという要望があり、常任幹事会でも検討することになった。会計幹事より、学会費未納者の督促状を出すのにも経費がかかるので、卒業する学生会員に対して退会届を忘れずに提出するよう指導してほしいという要望があった。集会幹事より、学会発表のオンライン登録が定着してきているが、今でも締め切り後に修正依頼をする人が何人かいるので、余裕を持って登録してほしいという要望があった。ホームページ担当幹事より、ホームページトップページの写真を季節ごとに替える予定なので、良い写真があれば提出してほしいという依頼があった。

## 3. その他

## 1) 日本育種学会優秀発表賞の投票方法について

幹事に日本育種学会優秀発表賞の投票用紙を配布後、投票方法の説明があった。各幹事は10件以内の演題（講演番号と筆頭発表者）を投票用紙に記入し、講演会最終日（3月28日）の15:30～17:30に大会本部内に設置する投票箱に投票することになった。

## ◇ 総会

開催日：平成21年3月27日

開催場所：つくば国際会議場 大ホール

1. 各常任幹事報告 庶務、集会、農学会・科研費、英文誌、和文誌、ホームページ

2. 第6回（平成20年度）日本育種学会論文賞の発表

3. 議事

1) 平成20年度決算報告・会計監査報告の承認

2) 平成21年度予算案の承認

3) 会則の改定について

議事はいずれも異議なく承認された

4. その他

1) 次期開催校（北海道大学）の紹介

2) 武田和義岡山大学教授（元日本育種学会会長）の日本学士院賞受賞の紹介

## ◇ 平成20年度決算および平成21年度予算

（単位：円）

収入の部	平成20年度決算	平成21年度予算
前年度繰越金	5,006,769	-518,130
会員会費	10,232,100	19,790,000
賛助会員会費	940,000	900,000
別冊等頒布	3,975,025	3,890,000
掲載料・別刷代等	2,646,927	3,000,000
広告料	1,040,950	1,000,000
雑収入	66,141	100,000
寄付金	850,000	400,000
印税収入	163,200	0
地域活動費繰戻	791	0
合 計	24,921,903	28,561,870

支出の部	平成20年度決算	平成21年度予算
I. 事業費	16,140,521	18,890,000
1. 雑誌刊行費	10,426,010	12,110,000
2. 別冊刊行費	3,296,301	3,380,000
3. 大会費	1,200,000	1,200,000
4. シンポジウム費	305,250	350,000
5. 学会賞費	324,960	350,000
6. オンライン版作成費	588,000	1,100,000
7. 名簿作成費	0	400,000
II. 運営費	9,077,942	9,268,459
1. 学会分担金	279,361	260,000
2. 事務担当者手当	400,000	400,000
3. 事務費	2,569,176	2,550,000

1) 庶務	1,006,739	1,050,000
2) 編集	1,325,937	1,180,000
英文誌	1,258,129	980,000
和文誌	67,808	200,000
3) 集会	130,500	200,000
4) 会計	106,000	120,000
4. 事務委託費	4,401,600	4,400,000
5. 通信費・送料	583,218	600,000
6. 付属印刷物	306,593	300,000
7. 男女共同参画活動費	127,870	140,000
8. 地域活動費	358,459	368,459
9. 雑支出	51,665	250,000
III. 予備費	221,570	403,411
IV. 次年度へ繰入	-518,130	0
V. 運営基金へ繰入	0	0
VI. 学会賞基金へ繰入	0	0
合 計	24,921,903	28,561,870

基金	平成20年度決算	平成21年度予定
運営基金	16,775,416	16,775,416
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
事典委員会	50,414	50,414

## ◇ 学会賞授賞式・受賞講演

開催日：平成21年3月27日

開催場所：つくば国際会議場 大ホール

平成20年度 日本育種学会賞

・谷坂隆俊（京都大学大学院農学研究科）「イネ有用遺伝子の探索・同定とゲノム多様化機構の解明」

・廣近洋彦（独立行政法人農業生物資源研究所）「イネ内在性レトロトランスポゾン *Tos17* の発見とその育種基盤利用への貢献」

・長野県農事試験場 オオムギ品種「ファイバースノウ」育成グループ（代表者：牛山智彦）「高品質食用オオムギ品種「ファイバースノウ」の育成」

平成20年度 日本育種学会奨励賞

・岩田洋佳（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター）「育種学情報のデータマイニングと効率の解析のためのプログラム開発」

・藤野賢治（ホクレン農業協同組合連合会）「イネの高緯度地域への適応形質に関する遺伝・育種学的研究」

平成20年度 日本育種学会功労賞

・秋濱友也

・稲津厚生

・中島卓介

・生井兵治

## ◇ 第115回講演会日本育種学会優秀発表賞

日本育種学会では、講演会における優秀な発表に対して「日本育種学会優秀発表賞」を授与し、これを顕彰することになった。第115回講演会（2009年度春季大会）

における同賞受賞者は以下の方々である。

**講演番号 6** : イネの鉄吸収と体内輸送機構を強化した高鉄含有米の作出。○増田寛志<sup>1</sup>・小林高範<sup>1</sup>・石丸泰寛<sup>1</sup>・臼田華奈子<sup>1</sup>・鈴木基史<sup>1</sup>・森川クラウジオ健治<sup>2</sup>・三枝正彦<sup>2</sup>・高橋美智子<sup>1</sup>・樋口恭子<sup>3</sup>・中西啓仁<sup>1</sup>・吉原利一<sup>4</sup>・高岩文雄<sup>5</sup>・森敏<sup>1</sup>・西澤直子<sup>1</sup> (1. 東京大学農学生命科学, 2. 東北大学大学院農学研究科, 3. 東京農業大学生物応用化学科, 4. 電力中央研究所, 5. 農業生物資源研究所)

**講演番号 83** : イネ卵細胞におけるミトコンドリア DNA 量およびミトコンドリア形態。○高梨秀樹<sup>1</sup>・大西孝幸<sup>1</sup>・茂木美来<sup>1</sup>・岡本龍史<sup>2</sup>・有村慎一<sup>1</sup>・堤伸浩<sup>1</sup> (1. 東大農学生命科学, 2. 首都大学東京・理)

**講演番号 87** : 減数分裂への移行に必須であるイネ遺伝子の単離と機能解析。○野々村賢一<sup>1,4</sup>・高嶋和也<sup>1</sup>・中野陸子<sup>1</sup>・永口貢<sup>1</sup>・宮尾安藝雄<sup>2</sup>・廣近洋彦<sup>2</sup>・倉田のり<sup>3,4</sup> (1. 遺伝研実験圃場, 2. 農業生物資源研, 3. 遺伝研植物遺伝, 4. 総研大生命科学)

**講演番号 150** : パンコムギ TILLING 系統における穂の形態変異の解析。○高久真実・安諸茉莉子・川浦香奈子・荻原保成 (横浜市大木原生研)

**講演番号 186** : ウィスカール法によるアルツハイマー病エピトープ遺伝子導入形質転換ダイズの作出。○長谷川久和<sup>1</sup>・西澤けいと<sup>2</sup>・石本政男<sup>2</sup>・内海成<sup>3</sup>・寺川輝彦<sup>1</sup> (1. 北興化学開発研, 2. 北農研, 3. 京都大)

**講演番号 12** : イネの生育過程における遺伝子発現アトラス作成。○佐藤豊・B. Antonio・本山立子・長村吉晃 (生物研ゲノムリソースセンター)

**講演番号 21** : イネジャポニカ栽培化過程における *Semidwarf1* の人為選抜の検証。○浅野賢治<sup>1</sup>・山崎将紀<sup>2</sup>・三浦孝太郎<sup>1</sup>・呉健忠<sup>3</sup>・江花薫子<sup>3</sup>・松本隆<sup>3</sup>・北野英己<sup>1</sup>・松岡信<sup>1</sup>・芦荻基行<sup>1</sup> (1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター, 2. 神戸大院農附属食資源教育研究センター, 3. 農業生物資源研究所)

**講演番号 26** : *Hwc1*, *Hwc2* によって生じるイネ雑種弱勢における細胞死。○沖山友哉<sup>1</sup>・一谷勝之<sup>2</sup>・藤田雅丈<sup>3</sup>・倉田のり<sup>3</sup>・渡部信義<sup>1</sup>・久保山勉<sup>1</sup> (1. 茨城大農, 2. 鹿児島大農, 3. 遺伝研)

**講演番号 29** : イネ品種日本晴 - カサラス間における T-DNA 導入効率の差異。○雑賀啓明・土岐精一 (生物研)

**講演番号 89** : イネゲノム育種への次世代シーケンシング技術の活用。○松村英生<sup>1</sup>・阿部陽<sup>2</sup>・吉田健太郎<sup>1</sup>・藤部貴宏<sup>1</sup>・木内豊<sup>2</sup>・寺内良平<sup>1</sup> (1. 岩手生物工学研究センター, 2. 岩手県農業研究センター)

**講演番号 178** : ダイズの耐湿性圃場検定法と耐湿性母本。○鴻坂扶美子<sup>1</sup>・田中義則<sup>2</sup>・大西志全<sup>1</sup>・三好智明<sup>2</sup>・藤田正平<sup>1</sup> (1. 北海道中央農試, 2. 北海道十勝農試)

**講演番号 30** : イネの収量関連形質に関する QTL 解析。○山村卓也<sup>1</sup>・柴田洋佑<sup>2</sup>・池田真由子<sup>3</sup>・高師知紀<sup>4</sup>・土井一行<sup>3</sup>・芦荻基行<sup>1</sup>・松岡信<sup>1</sup>・北野英己<sup>1</sup> (1. 名大生物機能開発利用研究センター, 2. 愛教大院教育, 3. 名大院生

命農学, 4. HRI-JP)

**講演番号 78** : イネにおける心皮の発生を制御する遺伝子の網羅的解析。○田中若奈・安彦真文・平野博之 (東大院・理・生物科学)

**講演番号 79** : イネの PETER PAN SYNDROME 遺伝子は juvenile-adult 相転換と光形態成を制御する。○田中伸裕<sup>1</sup>・伊藤純一<sup>1</sup>・千徳直樹<sup>2</sup>・長戸康郎<sup>1</sup> (1. 東京大学農学生命科学研究科, 2. 農業環境技術研究所)

**講演番号 81** : 葉や胚の軸構築に関与する *ADL* 遺伝子の分子遺伝学的解析。○松原健一郎・伊藤純一・長戸康郎 (東大農学生命科学)

**講演番号 97** : 効率的・低コスト遺伝子型判定のための dot-blot-SNP 法の改良。○汐海沙知子<sup>1</sup>・白澤健太<sup>1,2</sup>・西尾剛<sup>1</sup> (1. 東北大院農学, 2. 現: かずさ DNA 研)

**講演番号 98** : QTL 解析を通じたイネ根系形態改良の試み。○出口崇・中村真也・山内章・犬飼義明 (名大院生命農学)

**講演番号 123** : コムギにおける播性の進化と多様化—*Vrn-D1* 座における塩基配列多型の地理的変異。○芝井哲史・大村泰之・明石由香利・西田英隆・加藤謙司 (岡山大院自然)

**講演番号 215** : *Brassica rapa* × *B. napus* から得た後代植物における遺伝子浸透の評価。○赤羽美智子<sup>1</sup>・金子幸雄<sup>1</sup>・鄭凡喜<sup>1</sup>・津田麻衣<sup>2</sup>・房相佑<sup>1</sup>・田部井豊<sup>2</sup>・松澤康男<sup>1</sup> (1. 宇都宮大農, 2. 生物研)

## ◇ 男女共同参画推進委員会からの報告

第3回ランチョンセミナー「学会における男女共同参画をめざして—男女共同参画学協会連絡会の活動を通じて—」を、男女共同参画推進委員会が中心となって2009年春季大会期間中の昼食時に開催した(開催日時 2009年3月28日 12:15-13:15 開催場所 つくば国際会議場)。日本作物学会 男女共同参画推進委員会設立ワーキンググループにもご協力いただき、委員以外の参加者は84名(男性44名, 女性40名), 前回より9名増加した。

講師には、(独)産業技術総合研究所・評価部・主席評価役の富樫茂子氏をお招きした。富樫氏は、男女共同参画学協会連絡会(以下、連絡会)の副委員長を経験されており、連絡会の活動を通じたご自身の視点から、科学技術専門職の男女共同参画に関する現状と課題についてご講演いただいた。要約は以下のとおりである。

### 1. 科学の世界でなぜ男女共同参画?

個人レベルで見れば、真理を探究したいという欲求は男女共通であり、その実現が性別により制約を受けるといっては道理にかなわない。社会的に見ても、科学技術分野における高度かつ多様な人材の確保は喫緊の課題となっており、女性のポテンシャルを十分に発揮させ活用することがぜひとも必要である。

### 2. 男女共同参画学協会連絡会について

自然科学系の分野で働く女性科学者の数が少なく、ま

た、少子化が急速に進行しているわが国の現状に鑑み、自然科学分野の男女共同参画を推進するため、平成14年10月に連絡会が設立された。日本育種学会を含めて、38の学協会が正式加盟しており、29がオブザーバー参加している(2009.3現在)。会員総数は41万人(うち女性2万人)にのぼる。これまでに、文科省の委託事業として2回の大規模アンケートの実施、女子高生のための春・夏の学校の開催などの啓発活動、政府への男女共同参画に関する要望の提出などの活動を行ってきた。

### 3. ライフステージの観点から見た男女共同参画に関する現状と課題

2008年に連絡会が実施した第2回大規模アンケートの回答者は14000人。生命生物系分野、大学や公的研究機関からの回答が多く、女性の割合は実際の在職率よりやや高い。この集計結果に基づいて、科学技術系専門職の男女共同参画における現状と課題をライフステージに対応させながら議論した。

#### 1) 育成期(小中高教育、家族、大学・大学院)

科学技術職を選んだ動機は、真理の探求や自己実現などを理由にした回答者が多く、男女での差異はない。修士課程に進学する女子学生の比率は、理・工・農学系でこの15年で2-3倍に増加したものの10-30%に留まっており、男女較差は大きい。育成期の女子が科学への興味や将来への夢を育てられるような環境作りが必要である。

#### 2) 自立期(ポストドク、任期付き研究・技術員)

科学者としての基礎を築くと同時に、パーマネントな職を得る上でも重要な時期である。出産や子育ての時期にもあたるが、ポストドクでは育児休業がとりにくい傾向がある。また、女性研究者は職位・収入に関係なく2人以上の子供が持ちにくいという現状が浮き彫りになった。ポストドク後のキャリアパスに関しては、大学や公的研究機関での教育・研究職にこだわらず、多様な職種へ視野を拡げる必要があるが、企業による女性の採用はきわめて少ない。学会として今後の取り組みが望まれる。

#### 3) 就職後

就職した後は、家庭と仕事の両立、キャリア形成が課題。子育てや介護に関する制度の充実や、職場や家庭での意識改革を求める声が多い。情報ネットワークの構築や優先順位の割り当て(脱完璧主義)などが有効であるとの意見が寄せられている。

キャリア形成に関して明瞭な男女間差が現れているのは、45歳以上の役職指数(職位を指数化したもの)。再チャレンジ制度が整っていないことが一因であるとともに、女性の側に若い頃からリーダーになる意識が薄いことも原因として考えられる。今後は出産や子育てを支援する制度の拡充だけでなく、男女とも意識の変革が重要である。

なお、男女共同参画学協会連絡会の活動およびアンケートに関しては、以下のwebサイトでその詳細情報を得ることができる(<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/>)。ま

た、10月7日には東京工業大学大岡山キャンパスで、連絡会主催のシンポジウムが開催されるので、ぜひ参加されたい。

講演後の質疑では、女性研究者が職を得やすい制度作りに関して質問が寄せられた。富樫氏からは、採用する機関側の立場としては、ポストごとの個別採用は女性に不利に働く傾向があり、公平性の観点からは大枠での複数名同時採用が望ましいとの考えが示された。また、学会は、企業への人材PRなどの活動が可能ではないかという提言もなされた。

今回は、講演会を合同開催した作物学会からも多数の参加があり、両学会における男女共同参画推進の活動に関する情報交換の場としても有意義な機会となった。本セミナーの資料等は、育種学会ホームページ(<http://www.nacos.com/jsb/03/03siryu.html>)に掲載している。

第115回講演会では、会場のつくば国際会議場内に作物学会と合同で保育室を開設した。4家族の幼児と学童計5名が利用し、室内遊びや周辺施設の見学などで過ごした。今後の講演会でも、開催校の協力をいただきながら、託児室の開設を支援して行きたい。

## ◇ 記者レク報告：日本育種学会第115回講演会 選定課題記者会見報告

会見日時：平成21年3月19日11:00～12:15

会見場所：学士会分館(東京都文京区本郷7-3-1(東京大学構内赤門隣))

出席者：幹事長 矢野昌裕、庶務幹事 伊藤純一

参加報道機関：毎日新聞、朝日新聞、日刊工業新聞、日本経済新聞、日本農業新聞、化学工業日報、科学新聞の計7社(7名)

平成21年3月27日(金曜)、28日(土曜)につくば国際会議場(茨城県つくば市)で開催された日本育種学会第115回講演会の講演課題(計276課題)の中から常任幹事によって選定された以下の3課題について、記者会見を実施した。

### 【記者会見課題】

- (1) 講演番号：B004D「多収、極良食味で高温登熟下でも品質の良い水稻新品種「あきさかり」の育成」富田桂・堀内久満・小林麻子・田野井真・田中勲・見延敏幸・神田謹爾・林猛・寺田和弘(福井農試、元福井農試、福井県嶺南振興局、福井農林総合事務局)
- (2) 講演番号：B006B「イネの鉄吸収と体内輸送機構を強化した高鉄含有米の作出」増田寛志・小林高範・石丸泰寛・臼田華奈子・鈴木基史・森川クラウジオ健治・三枝正彦・高橋美智子・樋口恭子・中西啓仁・吉原利一・高岩文雄・森敏・西澤直子(東京大学農学生命科学、東北大学大学院農学研究科、東京農業大学生物応用化学科、電力中央研究所、農業生物資源研究所)
- (3) 講演番号：B270B「茶中間母本農6号」とそのきょうだい系統との交配により得られる集団にはカフェイ

ンレス個体が出現する」荻野暁子・田中淳一・谷口郁也・山田恭司（農研機構野菜茶業研究所，富山大学大学院理工学研究所）

それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成していただき，それに基づいて矢野と伊藤が説明し，質疑応答を行った。記者会見後，講演番号 B004D の記事が，日本農業新聞（3/20）に掲載された。講演番号 B006B の記事が，毎日新聞（4/7）および日刊工業新聞（4/9）に掲載された。

## 集会の案内

### ◇ 財団法人ソルト・サイエンス研究財団「平成 21 年度研究助成の決定」，「第 21 回助成研究発表会」および「ソルト・サイエンス・シンポジウム 2009」

#### ○平成 21 年度研究助成の決定

- ・助成件数 41 件
- ・助成金額総額 5,000 万円

#### ○第 21 回助成研究発表会の開催

- ・開催期日：平成 21 年 7 月 21 日（火）
- ・開催場所：都市センターホテル（東京都千代田区平河町）
- ・参加料は無料。参加希望者は財団にファックス・メール等で事前に申込。

#### ○ソルト・サイエンスシンポジウム 2009 の開催

- ・開催期日：平成 21 年 9 月 28 日（月）
- ・開催場所：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール（東京都新宿区西早稲田）
- ・テーマ：塩と生物
- ・参加料は無料。参加希望者は財団にファックス・メール等で事前に申込。詳細については，財団のホームページをご覧ください。

財団法人ソルト・サイエンス研究財団 (<http://www.saltscience.or.jp>) : Fax: 03-3497-5712; Tel: 03-3497-5711  
E-mail: saltscience@mve.biglobe.ne.jp

## 談話会だより

### ◇ 中部（東海）地区

#### 育種学会中部地区談話会（第 16 回講演会）

育種学会中部地区談話会は，2008 年 11 月 29 日，名城大学天白キャンパスにおいて第 16 回講演会を開催した。講演会では，特別講演として「イネにおける収量性育種研究と今後の課題」と題した名古屋大学生命農学研究科教授 北野英己氏の発表があった。一般講演では，10 課題の発表があった。参加者は約 60 名で活発な議論が行われた。

佐藤豊（名古屋大学大学院生命農学研究科）

### ◇九州地区

#### 九州育種談話会

2008 年 12 月 6 日（土）に第 3 回九州育種談話会を九州大学（実行委員長：熊丸敏博）において開催した。参加人数は講演会（特別講演 5 題，一般講演 21 題）59 名，懇親会 37 名であった。プログラムは下記の通りである。また，2009 年度は独立法人農研機構九州沖縄農業研究センター（合志市）において開催することを検討した。

日時：2008 年 12 月 6 日（土）特別講演：13：00～15：30，ポスター発表：16：00～17：30

会場：九州大学大学院システム生命科学府講義棟

懇親会：九州大学農学部生協食堂

【特別講演】マイクロアレイ解析とイチゴ育種への応用：

田代康介（九州大学大学院農学研究院）／突然変異体を利用したダイズ貯蔵脂質の改良：穴井豊昭（佐賀大学農学部）／バレイショの抵抗性育種：田宮誠司（長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場）／高温でも品質・収量が低下しにくい水稲「にこまる」の育成と高温耐性水稲育種の展望：坂井真（九州沖縄農業研究センター）／大分ブランド確立のための焼酎用大麦品種の開発：白石真貴夫（大分県農林水産研究センター）

【一般講演（ポスター発表）】サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統（SPFMV-S）外被タンパク質遺伝子を導入した組換えサツマイモの SPFMV に対する抵抗性の再評価。

○岡田吉弘（九州沖縄農業研究センター）／DNA マーカーを用いたバレイショ育種における 4 種類の病虫害抵抗性遺伝子同時検定のためのマルチプレックス PCR 法の開発。

○森一幸（長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場）／カンキツグリーンング病検定のための PCR 法高度化。

○菊池悦男，斎藤彰（九州沖縄農業研究センター）／ピーマンの青枯病抵抗性に関する QTL 解析。

○長田龍太郎（宮崎県総合農業試験場）／アフリカ産栽培イネ *O. glaberrima* が保有するツマグロココバイ抵抗性の遺伝解析。

○緒方千佳・吉村淳・安井秀（九州大院・農）／*Zoysia* 属植物の種間交雑系統における塩水灌漑後の Na および K 含有量の変化。

○村田達郎（東海大学農学部）／近年に育成されたサツマイモ品種と近縁野生植物 *Ipomoea trifida* との交雑性調査。

○高畑康浩<sup>1</sup>・中山博貴<sup>1</sup>・田中勝<sup>1</sup>・村田達郎<sup>2</sup>・松田靖<sup>2</sup>・岡田吉弘<sup>3</sup>（1. 九州農研都城，2. 東海大学，3. 九州農研合志）／ルジグラス培養細胞におけるキチナーゼの発現。

○許斐雅裕・斎藤彰（九州沖縄農業研究センター）／イネ登熟期胚乳におけるプルラン型 DBE の機能解析。

○豊澤佳子<sup>1</sup>・藤田直子<sup>2</sup>・内海好規<sup>2</sup>・中村保典<sup>2</sup>・佐藤光<sup>1</sup>（1. 九州大院・農，2. 秋田県大・生物資源）／イネ種子におけるグルテリン前駆体を多量に蓄積する *glup2* 変異体の遺伝学的解析。

○野口亮介<sup>1</sup>・小川雅広<sup>1</sup>・佐藤光<sup>1</sup>・熊丸敏博<sup>1</sup>（1. 九州大院・農，2. 山口県立大学）／「コシヒカリ」の精米タンパク質含有率に関する QTL の実証。

○和田卓也（福岡

県農業総合試験場)／サツマイモ品種「アヤムラサキ」の突然変異体におけるポリフェノール成分と遺伝子発現の変化。○田中勝(九州沖縄農業研究センター)／ビール大麦における葉の遺伝様式とその発現が生育・収量に及ぼす影響。○馬場孝秀(福岡県農業総合試験場)／TILLING法を用いたダイズミュータントライブラリーからのFT3突然変異体。○秀島瑠満子(佐賀大学農学部)／MDA法によって増幅したDNAからの変異の検出。○中島皓子(佐賀大学農学部)／ニラ(*Allium ramosum* L.)におけるイオンビーム照射の影響。○松田靖(東海大学農学部)／インド型イネ品種IR24を遺伝的背景とする*Oryza rufipogon* イントログレッションラインの作出と評価。○井上洋子・Vu Thi Thu Hien・Sobrizal・安井秀・吉村淳(九州大院・農)／コムギ小胞子の細胞周期同調による半数体倍加個体の作出。○堀内和奈<sup>1</sup>・都築誠司<sup>2</sup>・駒井史訓<sup>1</sup>(1. 佐賀大・院・農・フィールドセンター, 2. 佐賀大・農)／イネの花粉不稔に關与する遺伝子SK35とSK36の高精度連鎖解析。○渡邊美弥子・宮崎雄太・山形悦透・土井一行・吉村淳(九州大院・農)／イネ白葉枯病抵抗性遺伝子*Xall*のマッピング。○後藤高弘・松本忠之・古屋成人・土屋健一・吉村淳(九州大院・農)／炊飯米の食味に関するQTLの実証。○和田卓也(福岡県総合農業試験場)  
安井秀(九州大学大学院農学研究院)

### 日本育種学会会員異動(2009.1.21 ~ 2009.4.20)

◇ 普通会员入会：小川省吾，田中義則(北海道)，小野泰一(青森)，王寧(茨城)，小林佑理子(茨城)，大部

澄江(埼玉)，渡邊学(千葉)，谷口美穂(東京)，松本晃幸(鳥取)，榎藤崇裕(宮崎)

◇ 学生会員入会：尾崎英樹，藤井雅之(北海道)，白松齡(青森)，佐久間俊，下前和紀，南川舞，吉川和代(千葉)，原田瑤恵(神奈川)，Ahmed Sabina，中田有美，中村岳史，村上亮太(京都)，松本晃昌(岡山)，西村佳子(宮崎)

◇ 団体会員入会：東京都立多摩図書館(東京)

◇ 外国会員入会：Park Dae-Kwang，林在初(大韓民国)

◇ 外国団体会員入会：台南区農業改良場図書室(中華民国)

### 住所変更等

◇ 普通会员：中道浩司(北海道)，初山慶道(青森)，高草木雅人(岩手)，松永和久(宮城)，中島敏彦，保田謙太郎(秋田)，笹沼恒男(山形)，門馬信二(福島)，阿部匡，小菅一真，春原嘉弘，田畑美奈子，野中聡子，廣瀬咲子，法隆大輔(茨城)，吉成強(栃木)，菊池真司(千葉)，井上公一，山口聡，吉川貴徳(東京)，宅野将平(神奈川)，川上修，神戸崇(新潟)，飯田滋(静岡)，藤井潔(愛知)，諏訪部圭太(三重)，南山泰宏(京都)，花田裕美(和歌山)，八田貴(岡山)，藤田大輔(山口)，岡本正弘，佐伯由美(福岡)，大林憲吾(長崎)

◇ 学生会員：川崎顕子(鳥取)

### 逝去

稲葉幸司(京都)

慎んでご冥福をお祈りいたします。